

次世代につなぐ農と食の体験(あぐりキッズスクール)

- JA鳥取中央では、平成16年度から未来を担う子どもたちに農業体験を通して「農業の大切さ」「食べることの大切さ」「いのちの大切さ」を伝えるため、各関係団体と連携を図り「あぐりキッズスクール」を開催し農業体験活動を展開。平成25年度からは消費・安全対策交付金を活用し、取組を拡充している。
- 「あぐりキッズスクール」では、JA鳥取中央職員が地域別に設置された5つの「クラス」の担任役や指導員等となり、公募した小学生が1年を通じて様々な農業体験や実習で学ぶ。農業高校の生徒が子どもに身近なお姉さん、お兄さん役として、JAの新規採用職員と一緒に補助員としてボランティア参加している。



鳥取県

【取組の内容】

小学3年～6年生が植え付けから収穫までの農業体験、農作物の生育観察、農業施設見学、収穫物を利用した調理実習等を体系的に学習(平成25年度は、計28回開催、延べ721名が参加)。
水稲、さつまいもを始め、なし、らっきょう、酪農等、地域の特産品を題材に学習し、最後は、活動を壁紙新聞にまとめて発表している。



さつまいも収穫と調理実習



らっきょうの植付け



なしの収穫

【取組の成果】

- ・食に興味を持つようになった。植物の生長にも関心がでてきた。
- ・ご飯を食べる時に食べ物を作る人の大変さを知り、感謝して食べ、成長したように思います。
- ・ナスやピーマンをもらって帰ってきたときは、家でも料理の手伝いをしてくれて一緒に食べました。(保護者からの声)



あぐりキッズ 北栄 スマイル新聞